

道の駅への期待

世界経済フォーラム（ダボス会議）が3月末に公表した今年の男女格差報告書によると、日本は156カ国中120位である。前回は153カ国中121位で、先進工業国中最下位という事実は日本社会に衝撃を与えた。報告書はフォーラムが2006年からほぼ毎年発表、4分野で男女格差を数値化して順位をつける。調査は男女の格差を縮小し、男女平等を進めようとする強い意思で行われ、各国際機関と独自調査による膨大なデータに基づいている。

日本は総合スコアが0・656で100点満点に換算すると経済60・4（117位）、教育98・3、健康97・3、政治6・1（147位）と経済、特に政治分野の低さが際立つ。国別の順位に加え世界を八つの地域に分け、その中で格差も概観する。東アジアと太平洋の20カ国中、1位のニュージーランド以下、韓国11位、中国13位、日本は18位と下から3番目。下はパ

地域に貢献へ女性がさきがけに



【プロフィール】

国連人口基金タイ代表など数カ国の同基金事務所長、国際協力銀行技術顧問、国際協力機構国際協力専門員など歴任。道の駅の国際化を提言し、海外展開の実現に尽力。

プアニューギニアとバヌアツという驚くべき状況にある。この現実を傍観できず、幾つかの分野で改革が始まっている。道の駅は女性が主役と言っても過言ではない。道の駅の地域貢献の重要分野に雇用創出があるが岐阜、愛媛、新潟、石川、山口5県の調査では道の駅で働く7〜8割が女性だ。女性駅長も増えて90余名に上る。出荷組合の長を務める女性もおり出荷者の多くを女性が占める例もある。多くの道の駅に農産物加工所があり、必要な技術も習得できる。群馬県「吉岡」のように、女性達の要請を受け定年をなくした駅もある。働く時間も地域にあつた形で柔軟に取り決めれば女性にとつても働きやすい。内閣府は4月初め、男女平等と投資パフォーマンス向上を同時に目指す「ジェンダー投資」について調査報告書を発表した。「機関投資家の過半数が、投資をする時に女性の役員・管理職比率など女性活躍に関わる情報に注目している」という。時代は大きく変わりつつある。道の駅に関わる女性達が生きがいをもって創造的に働き、決定に関わり、地域の良さを広め、道の駅が環境、防災、健康など新しい分野で地域に貢献することを手助け、そうしたさきがけとなつてほしい。